

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 盧 東川

論文題目 中国の北方都市集合住宅の空間構成と住様式の変遷に関する研究

本論文は、中国ハルビンの都市集合住宅の調査によって、都市居住における集合住宅の位置と役割、社会体制と集合住宅供給の関係、空間構成の変化と特徴、生活行為と居住空間との対応関係によって中国の北方都市集合住宅の近代化過程における空間構成と住様式の変遷を明らかにすることを目的としている。

中国の経済開放政策とそれに伴う住宅私有化によってこの20年都市の住宅事情は急速に変化し、現在もその過程にある。従来の画一的な所有形態の住宅に加え、多様な所有形態の住宅が共存し、住宅を選択できる状態になり、住宅規模の拡大、住宅の類型や平面構成の多様化が見られるようになったことが研究の背景にある。商品化、近代化が進む都市集合住宅における各空間構成要素の現状、住様式、そして空間構成と生活行為の対応について再考する必要があると考えられるのである。

本論文は、6章よりなる。

序章では、研究の背景と目的、研究の方法、既往研究、論文の構成を述べている。

第一章「中国の都市住宅建設状況と住宅事情」では、都市集合住宅の出現及び建国後各時期の集合住宅建設の背景と特徴を概述し、集合住宅の平面構成の推移を文献調査に基づいて分析した。次に、80年代以降の中国都市住宅制度改革の状況と現在都市住宅の概況及び住宅供給体制の変化と今後住宅の発展動向を説明した。また、中国の伝統住居の特徴を分類し、概述した。

第二章「調査概要および調査から見た居住実態」では、調査の目的、方法、内容、結果を示し、分析・考察した。

現在の中国では、「一人っ子」の政策により、夫婦＋子供1人の3人核家族が主な世帯類型である。また高齢化が進むと共に高齢夫婦二人の世帯も増えている。以上の2種類の世帯がこれから中国集合住宅の主な世帯類型であることが明らかになった。

住宅建設が大幅に進行すると共に、都市住民の住要求も変化しつつある。住戸ごとの世帯人数が少なくなり、家族規模の小型化傾向が見られた。

住戸空間構成において、n室無庁、n室1庁から、さらにn室2庁までに発展する傾向が見られた。

新規住宅の選択要因として、間取り、自然環境、交通などの要素が重視されることが分かった。

第三章「集合住宅の空間構成変化及び特徴」では、集合住宅の主な空間要素である庁、寝室、余裕室、厨房、衛生間、入り口玄関、バルコニーの構成形態と使い方の実態の調査を通し、分

析・考察した。さらに、集合住宅の内装実態の変化を加えて考察した。

庁・室を中心とした平面構成の変化として、「庁型」住戸の変化から見ると、「玄関ホール型」の小さい庁の平面構成から、「拡大居間型」の大きい庁と「複数庁型」の平面構成に至る変化の傾向が見られた。

住宅規模の拡大に伴い、各空間の面積、部屋数とも増加したが、面積の増加は寝室面積よりも、庁の面積と室数増加へ大きく影響していることがわかった。

近年、住宅規模の拡大や世帯規模の小型化に伴い、余裕室が現れてきた。余裕室の使われ方としては、大きく2つの傾向が見られた。1つの傾向は、従来の無庁型または庁面積の小さい住戸の場合、余裕室は主に家族の起居室または食事室などの公的行為の場として使用している。また、一定規模と数量の庁を持つ住戸には、余裕室は主に個人室としての利用傾向が高まっている。

次に、その他の空間要素の変化傾向として近年、厨房と衛生間の面積は増加し、設備の更新、システム化も進んでいる。十分な面積と良好な設備を確保した上で、DK型は北方の都市集合住宅の中で一定の発展を遂げる可能性がある。また、浴室とトイレ空間の機能を分けようという要求はますます強くなっている。

住戸内外の連絡空間としての入り口玄関の役割はますます重要視されている。バルコニーの機能としては、サービス用と生活用の2分化傾向が見られた。

さらに、内装実態の変化について論じた。中国の都市集合住宅供給の主流であるスケルトン住宅供給の理由と問題点を明らかにし、次に、住戸の改造、内装の変化を把握した。

第四章「生活行為と居住空間の対応に関する考察」では、住宅内の生活行為の内容を概述し、集合的行為・個人的行為・家事的行為・生理的行為・補助的行為の5種類に分類した。次に、住居の主な集合的行為(団らん行為、接客行為、食事行為)、個人的行為(就寝行為)、家事行為を主要なものとして生活行為の特徴、類型、実態を明らかにした。この結果、住宅の空間構成の変化に伴って、各生活行為の実態も共に変化しつつある実態を明らかにした。また、各機能空間の専用化または一体化は、場合によって異なっており、住宅の物環境の変化に対応しながら、各生活行為の変化動向を更に検討する必要がある。

第六章「終章」では、上記諸章のまとめを行い、今後の課題を提示した。

本論文は、中国ハルビン市の調査から、都市集合住宅の近代化過程における、空間構成の変化と特徴、生活行為と居住空間との対応関係、特に庁の面積と室数増加の傾向を明らかにした。

以上のように本論文は、中国都市集合住宅に対する人々の要求を明らかにし、住戸の建築計画の一つの方向を提示し、建築計画学の発展に大いなる寄与を行うものである。

よって本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。